

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500154		
法人名	株式会社 江陽		
事業所名	グループホームふじの里(ふじ棟)		
所在地	岩手県奥州市江刺区藤里字平37-2		
自己評価作成日	平成28年1月12日	評価結果市町村受理日	平成28年4月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500154-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の総合的なケア施設として、同一の建物内にある認知症対応型デイサービスとの連携を密にしており、日々のレクリエーションや合同での行事を実施することで、グループホームの利用が円滑にできるような支援をしております
藤里振興会行事への参加、江刺南保育所、藤里小学校3年生の慰問、江刺南中学校生徒さんの職場体験実習の受け入れなど地域交流活動を積極的に行っております。また、紅葉狩りの際、レストランでの食事会を行っています。
季節感あふれる行事を毎月(花見・夏祭り・紅葉狩り・餅つき等)実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 同一の建物内のデイサービス、2ユニットのグループホームの連携が密であり、ゲームや運動会などで交流が図られている。
2. タンクローリーで、温泉の湯を運び、本場の温泉浴が出来、利用者の癒しとなっている。
3. 地区の運動会の見学、事業所主催の夏祭り、保育所・小学生の慰問、中学生の職場体験学習受け入れなど、地域活動が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「江陽憲章」を踏まえ、事業所の理念を策定しホーム内に掲示している。この理念のもと「笑顔」あふれる施設となる為、日々職員がこの理念を共有し、介護支援を実践している。	法人「江陽」のモットー「笑顔・和・支えあい」をホームの理念とし玄関に掲示している。朝の会を毎日行い、利用者一人ひとりに、笑顔で挨拶している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の文化祭、運動会等招待され見学に行った。また保育園(敬老会)小学校の慰問もあり利用者さんと楽しく交流した。今年も中学生の職場体験学習を受け入れ利用者さんと交流してもらった。	地区の運動会に招待され見学したり、事業所主体(同一の建物内のデイサービス、グループホーム2ヶ所と合同で実施)の夏祭りでは、縁日市、踊り、中庭での花火大会などを実施している。地区の歳末演芸会(隔年開催)の参加など地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣中学校の生徒さんの職場体験があり、認知症の方との接し方など理解して頂いた。また(株)江陽として、田原振興会主催で、介護セミナーin田原を開催した。包括センター職員さん、駐在所の警察官も参加され、充実した介護セミナーになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で防犯の日の情報を得て、使用する、防空頭巾作りをして、防空頭巾を被りサイレンと共に避難訓練をした。	会議の内容としては、行事計画と実施報告が多い。消防団長をやられている委員から外へ向けてのパテライト(災害を知らせる機器)の取り組みについての意見があり、検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用困難事例が発生した場合は、地域包括支援センター担当者と協議するよう管理者間では協議しているが、該当事例はない。	運営推進会議委員として、主管課担当者が出席しており、情報の共有が出来ている。行政主催の指導会が毎年、実施されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する勉強会を実施し、職員に対し、身体拘束をしない介護の必要性を共有し確認している。玄関の施錠に関しては夜間・早朝に関しては入居者様の安全性の観点から施錠している。	身体拘束に関する職員研修会を開催するとともに、「ちょっと待って」を言わない介護を運営理念として「身体拘束ゼロ宣言」をし、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法に関する資料をユニットに備え付け、社内勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や生活自立支援事業をユニットに備え付けているが、利用している利用者はなく勉強会をまだ開催できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ホーム入居への不安を相手の立場で考えるように接し、丁寧に説明するよう心掛けるとともに、意思確認書にて、重要事項に関しては、二重に確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームページのお問合せフォームや目安箱を利用し、利用者、家族からの要望などあった場合には意見の反映に心掛けている。	ホームの玄関に「目安箱」を設置しているが、投函されたことはない。運営推進委員に、利用者家族の代表者が委員として会議に出席している。その場での意見・要望に関する発言は特にない。面会や通院など家族が来訪した時に、意見・要望を聞くとともに、居室担当制とし利用者の意見・希望を日常支援の中で把握して連絡ノートで記録・共有して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表者と管理者は頻回に意見交換を行い運営に生かしている。その際、職員個々から出ている意見等も具申している。	法人代表者が職員として働いており、管理者、職員との意見交換の機会が多く、職員個々の意見や提案が運営に反映されている。定例の職員会議はないが、何か事案があれば、随時ミーティングも行っている。居室の温度調整について、一律の温度設定では対応できない居室があり、職員の提案で改善した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者、職員でのミーティングを定期的に行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務体制の配慮とともに、介護支援専門員、介護福祉士の受験、社会福祉主事、管理者研修、実践者研修、実務者研修を受講した職員がいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループホーム協会の会員であり、実践者研修の他施設研修で、他施設と交流の機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった場合、本人と面会し、ホームでどのように生活したいか、不安や要望を傾聴し、相手の立場になり親身かつ丁寧な説明に心がけ、安心してもらえるよう努めている。不安に思う所があった場合いつでも相談に応じている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時より、ホーム入居に関して困っている事や、不安、要望、家族の意向を伺い、質問に応じ納得して頂けるよう努めている。利用前であっても、都度相談には応じられる事を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族との面談を通し、今一番困っている事、一番したいことを明確にし、どのサービスが一番良いのか、話し合いにて納得して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事、食後の食器拭き、おしぼり作り、洗濯物たたみをして頂いたり、干し柿の作り方を教わりながら作るなど、共同での生活を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や、毎月のお便り(ふじの里だより)にて、本人の生活の様子や思いを伝え、把握してもらうと共に、ケアに関して、相談しながら気軽に話し合うことができる様配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	理容師が親戚の利用者があり、円滑に行えるよう支援している。行きつけの美容院には、家族が連れて行っている。また地元の踊りの会(年1回訪問)の方々の訪問を楽しみにしている。地区民運動会に参加(見学)し楽しまれている。	家族が馴染みの美容院へ連れて行ったり、踊りの会の仲間の訪問があったり、地区民運動会見学で知人と出会って楽しくお話しする機会など、関係継続が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で座ったり、おやつをたべたり、レクリエーションを通じ全員で楽しめるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えをする利用者が、次に住む場所(特養)の施設の方へ本人の状況、生活リズム、好みなどを伝え移り住むダメージを最小限に食い止める様心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本、新聞を読むことの好きな入居者に対し、移動図書館(月一回)から、2~3冊選んでもらい、借りている。毎朝新聞を、ユニットに持ってきて、入居者同士で回し読みをし、ちらしを見て「美味しそうだな、見てると腹減ってくる」とう会話も楽しまれている。	日常生活支援の中から連絡ノートで情報を共有している。新聞を購読している方、移動図書館から本を借りて読む方など、利用者の希望に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査にて、ご自宅に訪問し、家族より状況の聴取、ご自宅での様子を実際に確認し現状を把握するよう努めている。また入居後、本人、家族との会話の中から、生活歴等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個々の状況を把握し、ケアプランと日課表を作成、日々経過記録を確認し一人ひとりの対応と過ごし方を職員が理解し実行している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族の思いや願いを中心に据え、管理者の指示により計画作成担当者が中心となってカンファレンスを実施し介護計画を作成している。	居室担当制で、担当者がモニタリングし、情報を持ち寄り、カンファレンスで意見交換し、計画作成担当者が介護計画を策定している。デイサービスの看護師、協力医から医療面の情報も介護計画に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施記録、経過記録、業務日誌、連絡ノートにて日々の利用者の状況を記入し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、利用者に合わせたケアに必要な事柄や物の検討をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	岩手県、地区の防災訓練、に参加した。また地区民運動会(見学)に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に当たり、ご家族様から希望するかかりつけ医を確認している。かかりつけ医に対しては、受診時、情報提供書を送付し、ホームでの状態をわかりやすくお伝えできるように努めている。	かかりつけ医の受診は、家族の付き添いで、ホームから「情報提供書(1ヶ月間の状況記録)」を持参してもらっている。受診後、医師からの指示書(医療受診記録)を家族から頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の服薬状況、受診状況など状況に応じ、都度、協力医療機関に報告し、利用者の体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に緊急受診、入院した場合、情報提供書を医療機関に提示している。退院時は看護サマリーの提示を求め入院先が協力医でない場合は、紹介所を出してもらい、スムーズにホームに戻ってこられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居に当たり、終末期におけるご家族様の基本的な考え方を共有できるように努めている。その際には、ホームでの終末期ケアに対する基本的な考え方を示し、ホームでできることとできないことを明確に伝えている。	入居時に、重度化した場合の事業所の基本的対応について説明し、確認している。終末期には、協力医等の指示を得ながら家族の意向に沿って支援している。看取りを行ったケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは現在の状況を踏まえて見直しをしている。実践的訓練も今後定期的に行なおうと検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定、日中の避難訓練を行っている。(年2回)近所住民への協力体制の構築は不十分であるが、それを補うため、警備会社との連携を取っている。	消防署立会いと、夜間想定 of 避難訓練を実施している。自動火災通報装置、スプリンクラー等が設置・整備され、警備会社との連携を取っているほか、避難時のヘルメット、防災頭巾を備えている。	日中や夜間想定 of 避難訓練は実施しているが、実際に夜間での訓練を実施されることを希望したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様それぞれの生活背景を考慮し、本人が一番心地いい声掛けができるように留意し対応している。	トイレ誘導は他の人の目に触れないような声掛けし、難聴の方には耳元で話しかけるように配慮している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、排泄等の失敗や脱衣等の場合は、本人の気持ちを大切に考え、誇りやプライバシーを損ねないよう留意して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を職員からの問いかけによって引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の自発的行動を優先するが、ある程度規則正しい生活ができる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が髪を染めたい等要望がある場合、家族に対応してもらっています。また外出時など、どの服を着ていくか相談しながら決めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗拭き、おしぼり作り、等出来る事に取り組んでいただいている。また紅葉シーズンにドライブする際レストランにて食事をとるが、事前に利用者自身が何を注文するか決めてもらい、自分の好きな物を注文している。	お花見、紅葉狩りなど外食する時は、事前にメニューを取り寄せ希望を聞いて、注文している。利用者の嗜好については、食べ残しなどの状況でも把握している。利用者には、茶碗拭き、おしぼり作りなど出来る範囲で参加してもらっている。調理は、職員対応となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が栄養バランスに配慮した献立を作成している。入居者様夫々の食事・水分の摂取状況を記録している。口腔体操を実施し、誤嚥等の予防に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、口腔体操を実施している。口腔ケアは、起床時、午睡前、就寝前に行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サイクルを排泄チェック表で把握し、定期的な声掛けにより、トイレに誘導し、失禁の頻度が減った入居者もいる。	排泄チェック表により、排泄サイクルを把握し、トイレ誘導の声掛けをしている。失敗の回数が減少したり、ポータブル使用者がトイレ使用に改善された例もある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクを通じ適度な運動量の確保と水分補給を促し摂取するなどの支援をしている。病院から処方の下剤を調整しながらしようしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の入浴に対するニーズや心身状況を総合的に勘案して入浴サービスを提供している。希望する方は、毎日入浴されている。	温泉のお湯をタンクローリーで運び、温泉浴を楽しんでいる。隔日の入浴日であるが、希望により毎日でも入浴できる。異性による介助を拒否する方はいない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の落ち着く場所にベットを設置し休んで頂くなど、過ごしやすい環境には配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋等を個人チャートに綴り、職員が確認している。与薬に関しては、確認表を作成し誤薬のないよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書好きな利用者には、月1回の移動図書館を利用してもらい、将棋やカラオケなど好きな利用者は、職員と対戦したり、利用者同士での対戦など楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を見ながら、天気の良い日は近隣のドライブに行ったり、戸外の散歩をしている。季節行事でお花見やつつじ狩り、紅葉狩り等あり楽しまれている。	敷地内を職員と一緒に散歩している。利用者が外へ出たい希望があればすぐに出かけている。お花見、つつじ狩り、ポピー畑の見学、紅葉狩りなど季節ごとのドライブに行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に利用者の金銭所持はなく、ホームで小口現金として管理している。買い物ツアーの行事を企画し、金額を決めて買い物ができる場を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの場所がわからない方に対し、目線に合わせた場所に張り紙を掲示し、トイレの場所をわかりやすくするよう配慮している。ユニットを移動した、利用者がユニット入り口前のイスが居場所になり心地よい場所になっている。	ホールでテレビを見たり、カラオケを楽しんだりしている。玄関には利用者と職員で作った干支のサルのはり絵が飾られている。デイサービスのホールでは、体操・ゲーム・運動会などを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事など、なじみの利用者同士楽しく食べられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、日用品、思い出の品など持ち込みを可能にしている。テレビを持ち込んだり、使い慣れた椅子など持ち込まれている。	畳を敷いたベッド、エアコン、洗面台、クローゼット、整理棚、床暖房(部屋ごとに温度コントローラーがついている)が整備されている。テレビを持ち込んで視聴している方や家族の写真を飾っている方、趣味の鉢を持ち込んでいる方など思い思いの居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	毎日、朝の会、レク開始前に年月日を確認すると共に明確にし生活している。トイレに「便所」と張り紙をして迷わず使用されている。		